

市長と話そう、まち育て

& 子育て

第6回

タウンミーティング

- 日 時 平成27年1月15日（木）
- 場 所 北上市技術交流センター
- 参加者 北上工業クラブ会員企業で働く母親のみなさん
岩手東芝エレクトロニクス（株）
菅原 裕美子さん 五十嵐 幸江さん
シチズン時計マニュファクチャリング（株）東北北上工場
千葉 祐子さん 高橋 ひとみさん
有限会社夢工房
昆野 ゆきえさん
- 市出席者 高橋市長、松田教育部長、今野商工部長
- テーマ（１）子育てで困っていること
（２）子育てで行政に望むこと

今回は「子育て」をテーマにミーティングを行いました。
参加者のみなさんからは病院や小学校の統合、通学などいろんな質問や意見が出されました。



病後児保育室(注1)を増やしてほしい

菅原さん：これまで数回病後児保育室を利用する機会がありましたが、風邪の流行の時期は予約がとりづらいです。急に仕事を休まなければならないのは大変です。病後児保育室はとても良い環境ですが、定員が3人と少ないので増やしてもらえませんか。



松田教育部長：
確かに風邪やインフルエンザの流行時期は利用しにくいと思います。現在病後児保育室は1か所ですが、可能であれば増やしていきたいです。

市長：
済生会病院の先生にお願いしています。対応してくれる先生が増えれば、場所も増やしたいとは思っています。これは考えないといけませんね。

<注1> 病後児保育室

北上市では、病気の回復期にある児童をお預かりする「病後児保育室」を開設しています。保護者が仕事などの都合で保育できない児童を保育士と看護師が保育します。

詳しくはこちら <http://www.city.kitakami.iwate.jp/docs/2014052800479/>

男性の保育士さんを増やしてほしい

五十嵐さん：

娘が来年小学校に入学しますが、幼稚園には男性の先生がおらず、小学校で男性の先生に接することに不安があります。男性の保育士さんを増やすことはできませんか？

松田教育部長：
男性保育士は現在3名。全員保育園で、幼稚園にはおりません。徐々に増やしていきたいと思いますが、受験者数も少ないのが現状です。

市長：
現在の3名を市内の保育園で回すことも考えなければいけないかもしれませんね。

小学校の統合はどうなるの

千葉さん：

小学校の統合の話があるので、今後子どもの入学にあたって不安を感じています。



松田教育部長：

照岡小学校は現在生徒数が100人未満、1年生が10人ちょっとです。照岡小学校、立花小学校、黒岩小学校、及び口内小学校の4校の統合案があり、地域の方々に説明しているところでした。通学の問題など、さまざまな意見が出ています。

松田教育部長：

どの地区でも共通するのは学校が無くなるのは寂しいということですが、一方で複式学級などの問題もあります。

市長：

統合についてはこの1・2年で方向性が出ます。口内はこのままで行きたい、それ以外の地域は現在の古い立花小学校でなければ統合してもいいかな、という意見が多いようです。

市長：

中学校に入学した時にクラブ活動もできないようでは教育上問題があります。そういった地域づくりと教育双方の観点から検討する必要がありますね。



待機児童

高橋さん：

春に保育園に入園を検討しましたが、保育園の2歳児の受入人数が1人でした。知ったのが申込みの時で、今変更できず困りました。もう少し早いタイミングで受入れ可能人数を知らせてもらえると助かります。



松田教育部長：

現在は入園希望を出していただき、その中で決めていくのですが、0歳、1歳の在園児はそのまま進級していくので、定数の空きが出ないと受入できないのが現状です。

市長：

確かに1～2歳児の入園待機が生じていますので、早急に解決しなければならないと思います。また保育園の受入人数の公表についても早いタイミングで発表していきたいと思っています。

中学校への通学手段

昆野さん：

現在、娘がNPOのスクールバスを利用して東陵中学校に通っていますが、帰りのバスが1本しかありません。先ほど小学校の統合のお話が出ましたが、学校が遠いと通学が大変です。土日のクラブも頑張してほしいのですが、土日はバスが無いので送迎しなければいけませんし。



市長：

地域と中心を結ぶ、または地域と地域を結ぶ新しい交通システムを作る方向で進めています。ただし、時間が掛かるので早急な対応というのは難しいのが現状です。

こどもの医療費の助成

高橋さん：

子どもの医療費助成給付申請書（注2）は、毎月1回病院と薬局に出さなければならず、また市役所に申請書をもらいに行くのも大変です。仕事があるので火曜日の延長窓口しか行けないので、火曜日は残業できません。手続きを簡単にできませんか。

市長：

現在の2～3か月後に給付金が支払われる方法から、今後、県内一斉に現物給付（医療機関窓口で自己負担を支払わなくてよい方法）に切り替わるよう検討しているところです。この方法に切り替わると毎回申請する必要はなくなり、当初手続きすればその後は通院の場合、月1,500円を超えた窓口負担分は支払わなくてもよくなる予定です。

<注2>乳幼児医療費助成事業

国保年金課公費医療係に受給者証の交付申請をし、一定の所得以下であれば認定され、受給者証が交付されます。医療機関の受付窓口で受給者証を提示し、医療費助成給付申請書を診療月内に1枚提出します。給付金は、通常、診療月の2～3か月後、保護者に給付されます。

詳しくはコチラ <http://www.city.kitakami.iwate.jp/docs/2014073000032/>

こどもの健康診断

五十嵐さん：

乳幼児健康診査についてですが、3歳6か月の次は就学前の検査まで受診の機会がないのはなぜですか？できればその間、例えば5歳時に健診を受けたいのですが。

松田教育部長：

5歳児健診を行っている自治体があるので、そちらの事例を研究しています。（注3）

<注3>

本市では、母子保健法12条により1歳6か月児及び3歳児の健診を行っているほか同13条により乳児健診を4回と1歳児健診・2歳6か月児歯科健診を行っています。また、多くのお子さんが保育園や幼稚園に在籍し、園での健診を受けています。

5歳児健診は、就学に向けて発達障害の早期発見・早期支援を目的としていますが、本市では、乳幼児健診だけでなく、幼稚園・保育園等での巡回訪問や療育センター事業が充実し、早期支援の体制ができていることから、必要性が低いと考えています。

通学路の子どもの見守り

菅原さん：

通勤の途中、見守り隊の方を見かけるのですが、あれは地区で行っているのですか？それとも市全体で行っているのですか？

松田教育部長：スクールガードといって、小学校単位でボランティアを募って行っています。交通安全だけでなく、子ども達の登下校時の不審者の監視も行っています。また、地区によっては小学校とは別に、区ごとに当番を決めて行っている所もあります。

市長：地域によっては、交通安全協会の方々が横断歩道に立ってくださっています。不審者情報は年数回ありますが、ボランティアの方がいるだけで抑止力になるので、今後も老人クラブなどの方々の協力を頂きながら、将来的には認知症の方の徘徊についても注意して見てもらおうと考えています。

夜間の病院の電話相談

五十嵐さん：夜中に子どもの具合が悪くなった時に中部病院に電話したところ、適切な指示をいただき、朝まで具合が落ち着きました。消防署でも同様の相談を受け付けてくれるようですね。突然でとても不安だったので大変助かりました。



市長：

意外と知られていないのですが中部病院や済生会病院、消防署でも深夜の電話での相談を受け付けてくださいます。その場ですぐ病院に来なさいとか。もっと周知します。ありがとうございました。